土曜 ライフ・楽しむ

記憶の旅 小檜山博さんのエッセー

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」
編集長・真鍋康利さん

パッとフラッシュがたかれ、一瞬目がくらみました。びっくりして周りを見渡すと大勢が拍手をしています。カメラのレンズがこちらを向き、テレビカメラも二つ。何かとんでもないことが起きたようです。正面に著名な作家小檜山博さんの無理に作ったような渋い笑顔が見えます。

○　○　○

2012年7月31日、当時さっぽろ芸術文化の館（ニトリ文化ホール）にあった「北の映像ミュージアム」に、ふらっと立ち寄った時のことです。開館したのが前年の9月、以来ちょうど1万人目の入場者が私で、キリ番を祝ってもらいました。「持っている男」ということでしょうか、取材を受け、小檜山さんと並んで写真に納まり、たくさんの記念品をいただきました。なかでも「人生とは今日一日のことである」としたためられた小檜山さんの色紙は今もわが社の宝物として壁面を引き締めてくれています。

このミュージアムは、北海道をロケ地とした映画やテレビドラマなどの映像や史料が展示されている施設です。いろいろな方が手弁当で参加するNPO法人が運営し、小檜山さんが館長（現在は名誉館長）だったのです。

その少し前、かつて読んだ「風少年」や「雪嵐」の原風景を見たいと小檜山さんの生まれ故郷である滝上町オシラネップに「小檜山博文学碑」を訪ねました。それを話すと、「あんな遠くに実際に行ったという人はなかなかいない」と大変喜んでくれました。8年も前ですが、うれしそうな笑顔は忘れません。

○　○　○

このたび小檜山さんのエッセー集「人生讃歌　北国のぬくもり（河出書房新社）」が刊行されました。ご存じの方も多いと思いますが、JR北海道の車内誌に連載しているコラム「人生讃歌」をまとめた4冊目の単行本です。

このエッセーを読むと、そこに描かれる景色や出来事はすぐに自分のことに置き換わります。家族、友達や恩師、同僚、好きな食べ物やお酒、仕事、旅などなど、懐かしい記憶がよみがえってきます。それはこのエッセーから立ち上る匂いがそうさせるのでしょう。時空を超えた旅をしている気がしてきます。

縁あってこの本の書評を書きました。出版社の方からの依頼で、掲載は本紙ではありませんが、大変光栄なことと喜んでいます。それを読んだのか滝上町教育委員会の方から「小檜山博文学館」が11月1日にオープンするという案内が届きました。コロナが落ち着いたころを見計らってぜひ訪れたいと思います。あっ、もちろん移転を余儀なくされた北の映像ミュージアムにも行くことにします。